

表11-2 主要な地形・地質リスト

区分	名称	概要	情報源	
地形	小屋の羅漢穴	大野ヶ原の麓、標高 720mの地点にある鍾乳洞で洞内は最長約 300mをこし、支洞も合わせた全長は約 430mに達する県内最大の鍾乳洞である。	1、2	
地質	岩石・鉱物の露頭	八釜の甌穴群	河床の堅いフリント質角岩（チャート）が、渦流によってうがたれてできた甌穴で、川幅25m、長さ65mの間に30数個形成されている。このうち、最大のものは直径12mにも達している。	1、2
		扶桑木（珪化木）	森の大谷海岸にあつて 1,800mにわたって第三紀層に属する粘土質岩が露出している。この地層から埋れ木がみられ、これを古来から扶桑木と呼んでいる。この扶桑木は、メタセコイヤ、トガサワラ、オオバラモミ等の古代植物が長期間土中にあつて炭化したもので、第三紀層研究の貴重な資料となっている。	1
	地質構造	砥部衝上断層	数千万年前の地殻変動によってできた逆断層で、地質学上西南日本を二分する中央構造線に沿う大断層が起こった年代を決定する重要な証拠となるものである。カガス淵付近の地層の重なり状態は、約6千万年前に堆積してできたといわれる新生代第3紀久万層群の上にかぶさっており、衝上断層（逆転層）といわれることがよくわかる。走行北30度東、傾斜北西40度を示している。	1、2
	化石産地	田穂の石灰岩	大正11年(1922)大野作太郎によって田穂吉野坂（通称カライワ）の石灰岩中からアンモナイトの化石が発見された。鑑定の結果、中生代下部三畳紀ミーコセラス層（2億5千万年前から2億4千万年前まで）であることが当時日本国内では初めて確認された。この層中から現在発見されているものは、発見者大野氏の名を付けたアナシビリテス・オーノイ、田穂の地名を付けたヘミプリオス・タホエンシスなどのアンモナイトである。	1

注 資料の出典は、次のとおりである。

- 1 愛媛の文化財（愛媛県教育委員会、平成5年）
- 2 えひめ自然百選ガイドブック（愛媛県、平成4年）

なお、一般に地形、地質及び自然現象として挙げられるものは、次のとおりである。

表11-3 地形、地質及び自然現象

地 形	①火山地形 成層火山、鐘状火山、塔状火山、臼状火山、溶岩円頂丘、マール、カルデラ、カルデラ壁、火山性高原、流れ山（泥流丘）、寄生火山、シンダーコーン（碎屑丘）、火口、火口原、溶岩台地、火砕流台地、溶岩原、溶岩流、歴史時代に流下した溶岩流、溶岩洞窟、溶岩トンネル、溶岩樹型、溶岩流末端崖、風穴・氷穴、溶岩浸食地形、火口湖、火口原湖、カルデラ湖、溶岩堰き止め湖
	②山地地形・断層地形 準平原遺物、鋸歯状山稜、花崗岩ドーム、岸壁・断崖、岩峰、奇岩怪石、天然橋、岩門・石門、岩柱、線状凹地、キレット・蟻の塔渡りのような特徴的な稜線、巨大崩壊地、顕著な地すべり地、地すべりによって生じた池、千枚田景観、断崖崖、歴史時代に生じた活断層、地震によって生じた池、地震によって生じた地割れ
	③河川地形・湖沼 峡谷、渓谷、滝、滝壺、ナメ、淵、瀨、瀬、湧泉（群）、ポットホール（おう穴・かめ穴）群、土柱、バッドランド、自然河川、蛇行河川、三日月湖、穿入河川、河岸段丘、扇状地、沖積錐、自然堤防、後背湿地、落堀、河畔砂丘、干潟、河川争奪地形、谷中分水界、還流丘陵、天井川、谷津田景観、各種の湖沼、湿原、マッドランプ
	④海岸と海の地形 リアス式海岸、多島海、潮れ谷、岩石海岸、海食崖、海食洞、波食棚（ベンチ）、歴史時代に隆起した波食棚、岩礁、潮吹き穴、きのこ岩、ポットホール、砂丘海岸、砂洲、砂嘴・礫嘴、砂丘、三稜石、陸繋島、海岸段丘、サンゴ礁、隆起サンゴ礁、海跡湖（潟湖など）
	⑤カルスト地形 カルスト台地、カッレンフェルト、ドリーネ、ウバーレ、ポリエ、鍾乳洞、石灰華段丘、鍾乳石、石筍
	⑥地質構造を反映した地形 各種節理（柱状節理、板状節理、亀甲状節理、車軸状節理など）、馬の背岩のような岩脈
地 質	①特殊岩石・特殊鉱物・指標テフラなどの露頭（タイプロカリティー）
	②地質構造の現れた露頭 各種褶曲（背斜、向斜、横臥）、各種断層（正断層、逆断層、横ずれ断層、押しつぶせ断層など）、枕状溶岩、不整合、偽層（斜向層理）、インボリューション、アイスウェッジキャスト
	③化石などの産地 化石産地、珪化木産地、埋設木、化石林、化石漣痕、恐竜などの足跡化石産地、古土壌（赤色土など）の分布地
自然 現象	噴火、噴泥、噴砂、噴泉、泥火山、噴泉塔、噴気、地獄現象、間欠泉、温泉・鉱泉、湧泉、渦流、潮流、潮吹き現象、風紋、砂漣、蜃気楼、結氷、霧氷、樹氷、万年雪、雪田、雪渓

## 2 重要な地形及び地質の分布及び特性

先に作成した主要な地形・地質リストから、環境保全上注目すべき地形・地質を抽出し、その注目すべき理由（抽出根拠）、概要（規模、内容）、環境保全関係の法令指定状況及び情報源等を表にまとめ、合わせてその概略分布図を作成する。

重要な地形及び地質とは、環境保全関連の法令により指定されているもの、既往の調査により希少性等の観点から選定されているもの、学識経験者等が注目しているもの、地域住民とのかかわりが特に深いもの、優れた自然景観の主要構成要素であるなど景観的な価値を有しているもの、自然教育・環境教育に利用されるなど教育的な価値を有しているもの等である。

なお、既往調査により選定された地形・地質の中には、環境保全上の観点以外で取り上げられているもの、あるいはその選定理由が当該地域では当てはまらないもの等が含まれる場合があるので、注目すべき地形・地質は、それぞれの選定理由と地域特性を十分勘案して抽出する必要がある。

また、概略分布図は、原則として1/5万程度の縮尺の地形図をベースとして作成することとするが、既存資料の精度が低い場合には、1/20万の縮尺でもやむを得ないこととする。

重要な地形・地質と保全目標として設定される保全対象の地形・地質との関係

地形・地質リストに掲げられたすべての地形・地質

重要な地形・地質

保全目標として設定される保全対象の地形・地質

例

地域概況調査によって把握された地形・地質のうち、保全上注目すべき地形・地質は、表○に示すように地形5箇所、地質4箇所（内訳は岩石・鉱物の露頭2箇所、地質構造1箇所、化石産地1箇所）及び自然現象2箇所であり、その分布範囲は、図○のとおりである。